

平安時代 一条天皇に仕えた中宮^{人付}の女房がいた。

① 中宮彰子の女房 紫式部

② 中宮定子の女房 清少納言
(皇后)

①は家が余り豊かではなかった。コネも余りなく、30才
ぐらいで結婚したらしい。夫には彼女より年上の息子
が居た。隆光・職名は「とものものすけ」

隆光のあだ名が今に伝っていると書いたものを読むと
大法会獅子 (バカ息子の意味)

②は余り知られていないが兄と弟がいた。兄が人殺しを
したので、それが理由で弟が呼び出され とり囲まれて
惨殺されたそう。

古文書を読む時は注意

[判官] 殆んどのケースで はんかんと発音

(判)検非違使庁では ほうかんと " (今の警察官・
裁判官を兼ね 強い権限をもっていた。)

下馬評

馬の話ではない

人事異動について召集がかかった時主として社寺・
武家など馬で行くと馬から降りるのは下馬處の指示板
の場所になる。

主人が戻ってくる迄 お供の者同志が重要ではない
世間話をしていることをいう。

現在でもよく似たことばがある

サラリーマンはメシより好きな人事異動！